

5 フッ化物洗口の費用はどのくらいかかるのでしょうか？

費用は人件費を除き、薬剤費用、溶解用容器、分注容器、紙コップなどの費用が初年度かかりますが、人数によって異なります。(人数が多くなれば1人あたりの単価は低くなります。)

例 小学校で週に1回フッ化物洗口を行うと想定した場合
(対象者:1クラス40人×2クラス×6学年=480人、年間40週として費用を算出)

・フッ化物洗口水溶液1回当たりの必要量

週1回:0.2% (900ppm) …10mL×480人=4,800mL

必要なフッ化ナトリウム量:4,800mL×0.2%=9.6g

ミラノール (1.8g包) を使用した場合:9,600mg÷198mg=48.48 … 48包

つまり、年間48包×40週=1,920包 1包あたり約75円として

年間薬剤費用:1,920包×75円=144,000円 (1人あたり300円)

※上記分量は、実際人数分での計算なので、分注する際の余裕を考え、5リットルに49包で溶解することになると考えられます。

★小学校で使用する主なフッ化物洗口剤 (販売薬) の使用例

商品名	1包の容量	使用濃度 (ppm)	1包あたりのNaF量	1包あたりの水の溶解量
ミラノール顆粒11%	1g	900	110mg	1包を約55mLに溶解で900ppm
	1.8g		198mg	1包を約100mLに溶解で900ppm
オラブリス洗口用顆粒11%	1.5g		165mg	1包を約82mLに溶解で900ppm

注) 上表は一例ですので、水に溶解する洗口剤の量は歯科医師または薬剤師の指導のもと、適切な量を使用してください。

★必要な用具



左：オラブリス 右：ミラノール



集団洗口する際の薬剤溶解容器

長崎県／長崎県歯科医師会

【学校歯科医師】



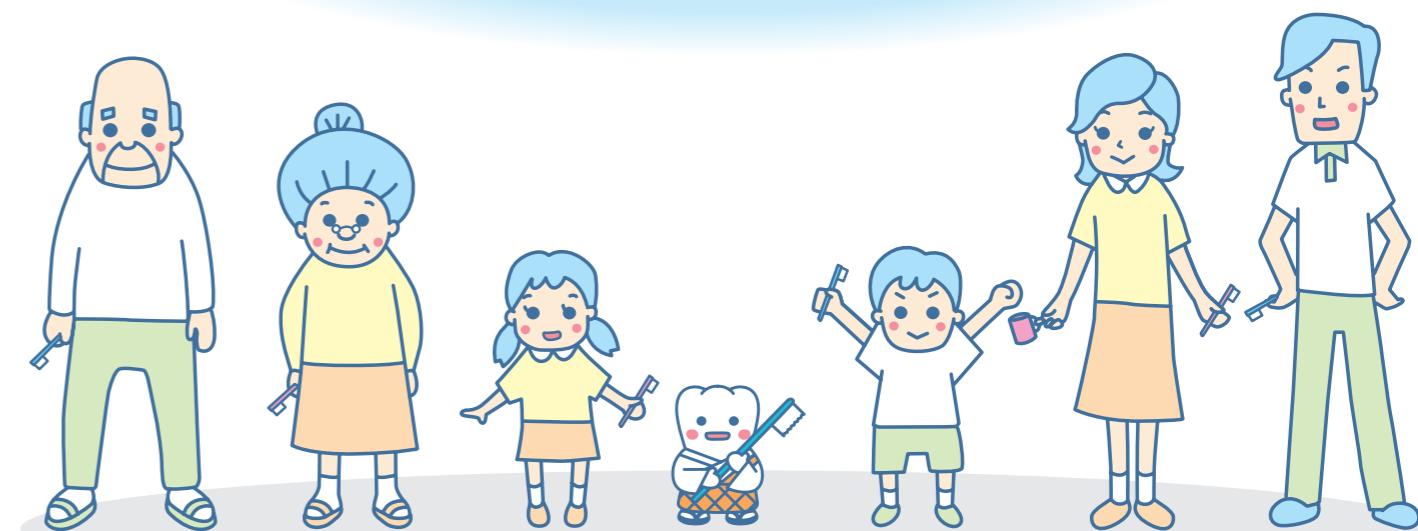
ご当地よ坊さん
「よ坊さんと歯っぴい龍」



小学校の保護者のみなさんへ



むし歯予防のために
フッ化物洗口を試みませんか



1 フッ化物洗口を小学校でなぜ行うのでしょうか？

健康な歯でよく噛むことは、子どもの発育に重要な役割があり、むし歯予防は、健全な発育への取組に必要なことです。

むし歯は、家庭だけの問題ではありません。むし歯の多発期は、小学校入学前から学校での集団生活をおくっている年齢層です。したがって、家庭だけでなく、保育所・幼稚園・学校でも子どもたちの生活環境にあわせたむし歯予防対策を行うことで、子どもたちの今と将来の健康を支えることができます。

★集団としてむし歯予防対策を実施するために必要なことは？

小学校で集団のフッ化物洗口を行う場合、以下のことが重要となります。

- ① 任意性 (選択の自由)
- ② 同意 (洗口実施について保護者への説明と同意)
- ③ 配慮 (洗口をしない子どもを他と区別することなく真水などで同じように実施させるような配慮)
- ④ 情報提供 (学校歯科医師等から学術的な見識及び科学的な根拠をもとにした正確な情報提供)

2 フッ化物洗口はどのような方法で行うのでしょうか？

フッ化物洗口は、一般的に225ppmから900ppmの濃度の洗口液(5~10ml)を口に含み、「ぶくぶく」とうがいをする方法で、毎日法と週1回法があり、効果は同じですが、年齢に応じ、生活環境を考慮して方法を選択します。

× がらがらうがい



○ ぶくぶくうがい



洗口方法

1 毎日法

低濃度(ミラノールの場合250ppm)で週5回実施する方法です。歯磨きと同じように生活習慣として行うと継続しやすいので、家庭や未就学児の施設で行うのに適しています。

なお、少し高濃度(ミラノールの場合450ppm)で毎日法を実施する場合があります。

2 週1回法

毎日法よりも高濃度(ミラノールを調整して900ppm)で、週1回実施する方法です。小学生以上の年代で、集団(学校)で実施するのに適している方法です。

むし歯予防のポイント!

フッ化物洗口によるむし歯予防効果は100%ではありません。フッ化物洗口だけに頼るのではなく、日常の生活習慣において、丁寧な歯磨きでお口の衛生を保ち、甘いものをだらだら食べないなど、組み合わせることが大切です。



3 フッ化物洗口によるむし歯予防の効果を教えてください。

● フッ化物洗口の効果は、最新の研究で23~30%とされています。

(引用「フッ化物についてよく知ろう う蝕予防の実践と知識」長崎大学医歯薬総合研究科 飯島洋一准教授監修)

※厚生科学研究班作成の「う蝕予防のためのフッ化物洗口マニュアル」では、30~80%の効果があるとの研究成果が示されています。

● フッ化物がむし歯予防に有効な理由として、次のような働きがあります。

① 歯の構造を強くする。(耐酸性を高める)

フッ化物が歯に作用すると、ハイドロキシアパタイトがフルオロアパタイトという極めて酸に対して溶けにくい結晶構造となり、歯の表面が丈夫になります。

② 歯の表面を修復する。(再石灰化)

むし歯になりかかったエナメル質(カルシウムが溶けだすこと)に作用し、その部分に再びカルシウム等が沈着して歯の表面を修復(再石灰化)したり、脱灰してむし歯になるのを抑制します。

③ その他のフッ化物の働き

フッ化物は歯質を強くしたり、修復したりする作用以外にも細菌が酸を産生するのを抑制したり、歯垢(細菌の塊)の形成を抑制する働きがあります。

4 フッ化物洗口の安全性を教えてください。

国が示した「フッ化物洗口ガイドライン」では、適正な濃度と量を守れば、たとえ誤って1回分の全量を飲み込んで健康被害が発生することはないと示されています。急性中毒、慢性中毒試験の成績からも安全性が確保されています。

さらに、WHOをはじめとする世界の専門機関も安全性を認め、むし歯予防に効果的な方法として推奨しています。

例 児童(体重30kg)が週1回法の洗口で口に含む液の量は10mlですが、約6~7人分を一度に飲み込むと吐き気や嘔吐、腹部不快感などの急性症状があらわれることがあります。フッ化物洗口は、局所応用(飲み込まない方法)であるため、仮に数回くらい飲み込んで慢性症状が起こることはありません。

例 フッ化物洗口後の1日平均のフッ素摂取量は、口腔内残留率を10~15%として計算すると約0.2mgになり、この量は紅茶や緑茶、ウーロン茶1~2杯に自然に含まれる天然のフッ素の量に相当し、十分安全な量です。

例 市販されている約9割の歯磨剤には、約900ppmの濃度のフッ化物が含まれています。

